

30年5月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 5月1日～ 30年5月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 18.8	△ 37.5	△ 25.0
	マツ	△ 38.9	△ 33.3	△ 38.9
	広葉樹	△ 10.0	△ 10.0	△ 5.0
消費動向	スギ・ヒノキ	7.1	7.1	0.0
	マツ	△ 12.5	△ 18.8	△ 18.8
	広葉樹	△ 5.6	0.0	△ 5.6
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	△ 31.3	△ 31.3
	マツ	△ 38.9	△ 38.9	△ 38.9
	広葉樹	△ 10.0	△ 20.0	△ 25.0

・チップ用国産原木の集荷動向はスギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。
・スギ・ヒノキの消費動向は5月、6月の増加から7月は横ばいに。マツは3カ月連続減少。広葉樹は5月の減少から6月は横ばい、7月は再び減少に。
・在庫動向はスギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/5月	6月	7月
スギ・ヒノキ	12.5	12.5	0.0
マツ類	5.6	5.6	0.0
広葉樹	5.0	5.0	5.0

・チップ用国産原木の価格動向は横ばいで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・冬期間入荷しなかったスギの少し入荷してきた。来月以降はバイオマスとの関係で入荷が少なくなると思われる（東北）
・スギ、ヒノキ、マツ類とも季節要因により伐採減少、広葉樹は森林再生事業からの入荷増が見込まれる。在庫はスギ6.0→5.0カ月、マツ2.0→1.5カ月、広葉樹2.0→2.5カ月（東北）。
・5月以降原木の入荷量が減少傾向にある。特に針葉樹はバイオマスに流れているため確保が厳しい（関東）。
・大手製紙会社が6月の定期修理を控え、若干受け入れを調整する可能性がある（中部）。
・仕入、消費、在庫動向とも横ばいで変動なし（中国）。
・当月天候も良く安定入荷、翌月、翌々月も安定入荷で横ばい。マツ類は減少。消費も変動無く、翌月、翌々月とも横ばい推移。仕入、消費横ばいにつき在庫も横ばい見通し（四国）。
・当月は全樹種ともに先月並みに高水準で入荷予定。6月は梅雨の影響で入荷減少すると思われる。消費は5月は製紙会社の点検月のためにチップ納入量が減少する。6月からは通常の計画通り。在庫は針葉樹、広葉樹ともに、今月は減産のため丸太在庫は増えると予想する（九州）。
・5月も取引業者からの広葉樹原木仕入が少ない状態が続く。原木確保が難しく消費、在庫とも少ない状況で横ばい。（九州）

(原木価格)

・バイオマス燃料需要増加により、県内産針葉樹が高値で他県へ流れている。針葉樹価格の上昇に伴い広葉樹価格は上がり気味（東北）。
・購入価格スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばいで変化なし（中部）。
・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも原木価格は横ばいで変動なし（中国）。
・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも原木価格は横ばいで変動なし（四国）。
・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも原木価格は横ばいで変動なし（九州）。
・広葉樹は横ばいで推移（九州）。

30年5月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 7.1	△ 7.1	△ 14.3
	マツ類	△ 31.3	△ 25.0	△ 31.3
	広葉樹	△ 11.1	△ 5.6	△ 16.7
出荷動向	スギ・ヒノキ	0.0	△ 14.3	△ 14.3
	マツ類	△ 31.3	△ 37.5	△ 37.5
	広葉樹	0.0	△ 5.6	△ 5.6
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 16.7
	マツ類	△ 42.9	△ 42.9	△ 42.9
	広葉樹	△ 12.5	△ 12.5	△ 18.8

・木材チップの荷動き動向はスギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキ、広葉樹の出荷動向は5月の横ばいから6月、7月は減少に。マツ類は3カ月連続減少。

・在庫動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	30/5月	6月	7月
スギ・ヒノキ類	0.0	△ 8.3	0.0
マツ類	0.0	△ 7.1	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向は横ばい推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・原木の入荷が少ないため横ばいなしやや減少（東北）。
- ・スギ・ヒノキ類、マツ類の入荷減少に伴い出荷量減少。針葉樹の減少により広葉樹の出荷が増加（東北）。
- ・各製紙会社とも針葉樹チップの増量の要請がある（関東）。
- ・原木の入荷、在庫減少により生産量も減少。出荷枠はあるものの生産が制限されることにより出荷は低調（中部）
- ・生産、出荷、在庫動向とも横ばいで変動なし（中国）。
- ・仕入と同じ動きで当月、翌月、翌々月とも横ばい。出荷は製紙、ボード、燃料とも変動無く当月、翌月、翌々月とも横ばい。在庫も増減なく横ばい（四国）。
- ・5月は製紙用、燃料用ともに出荷先が点検月に当たるため生産・出荷が減少している。チップ在庫はしていなし（九州）。
- ・広葉樹原木の確保が難しく生産、出荷とも少ない状況で横ばい。基本、チップの在庫は置かない（九州）。

(木材チップ価格)

- ・チップの出荷価格はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばいで変化なし（中部）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも出荷価格は横ばいで変動なし（中国）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも出荷価格は横ばいで変動なし（四国）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも出荷価格は横ばいで変化なし（九州）。
- ・広葉樹チップ価格は横ばいで推移（九州）。